

特集

血液内科のご案内

骨髄では、通常、約 200,000,000,000 個の赤血球、約 100,000,000,000 個の血小板、約 6,000,000 個の好中球が毎日作られています。一方でほぼ同数の血球が日々崩壊し、血球数は定常状態に保たれています。

血液内科では、白血病・悪性リンパ腫、多血症・血症板増多症などの造血器悪性腫瘍、各種の貧血、出血傾向を来たす疾患（血小板減少や凝固因子低下）などの診療を行なっています。

血液疾患は治療法が多様化しており、当院では最新のエビデンスに基づく治療法ならびに標準的化学療法を重視して治療法の選択肢を提示し、当院で実施可能な治療法については出来る限り対応しています。当院で実施困難な治療については、他の医療機関（浜松医科大学医学部附属病院、浜松医療センター、聖隷浜松病院、磐田市立総合病院など血液疾患に対する治療環境の充実した基幹病院）へ紹介しています。

血液疾患の治療方針でお悩みの患者様がおられましたら、お気軽にご相談下さい。ご紹介の際は、血液データ、健康診断の記録など、過去の経過が分かる情報を可能な範囲でご提供いただけると助かります。

※主な対象疾患

1) 造血器腫瘍

急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍（慢性骨髄性白血病、真性多血症、本能性血小板血症、原発性骨髄線維症など）、急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、慢性リンパ性白血病など

2) 自己免疫疾患

特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、自己免疫性溶血貧血、後天性血友病など

3) その他（代謝性・栄養失調性疾患など）

ビタミンB12 欠乏性（悪性貧血）、亜鉛欠乏性貧血、鉄欠乏性貧血（難治性）、膠様髄（低栄養骨髄）、薬剤起因性血球減少（薬剤性血小板減少症、無顆粒球症など）腎性貧血など

【 担当：血液内科 杉本 雄哉 】

妊婦からうつる「先天梅毒」の子ども過去最多に

世界中で梅毒が流行しています。国内では、2022年に梅毒感染者数が、感染症法の第5類感染症の全数把握対象疾患に定められて以来初となる10,000人を突破しました。2012年までは、MSM(男性同性間性的接触者)のなかでわずかにみられていた梅毒ですが、2013年以降は、若い世代の女性感染者が急増しています。

梅毒にかかっている女性が妊娠すると、流産や死産、胎盤を介して胎児に母子感染し、難聴や知的障害など重篤な障害を引き起こす「先天梅毒」になるリスクが高くなります。

届け出数、史上初1万人越え 20～30代の女性患者が急増

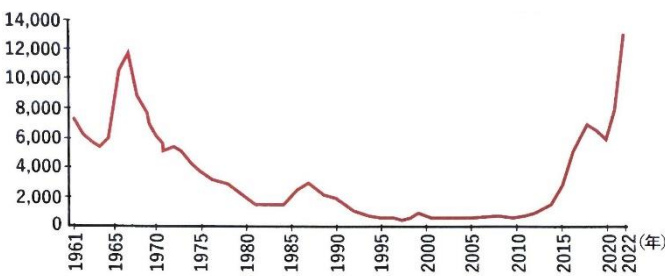
日本において梅毒は、1948年から施行された性病予防法により全数届出が求められ、その後、1999年施行の感染症法で5類感染症の全数把握対象疾患に定められ、診断した医師は7日以内に管轄の保健所に届け出ることが義務付けられています。

図表1にみるように、梅毒届出数は1961年以降、約50年間で大きく減少しました。それが、2011年の増加に転じ、とくに2021年以降、急増しています。2022年には1万3258例と、半世紀ぶりの高水準を記録しました。なお、男女比率は、2019～2022年の4年間の累積届出数計3万3745例のうち男性が66パーセント、女性が34パーセントと報告されています。

2013年以降、特徴的なのは女性感染者が急増していることです。そして、女性感染者の4分の3は20～30代であり、若年層が中心となっていることです。

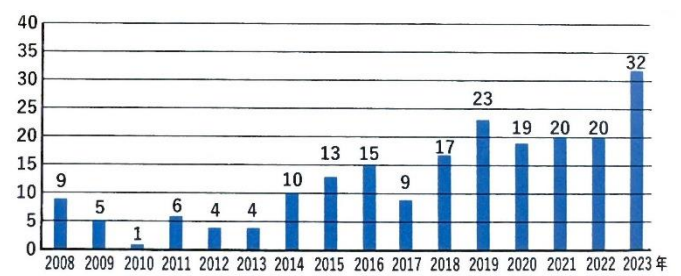
またこれに比例するように母子感染症である先天梅毒が増加しています。梅毒に感染している妊娠女性は年間200例を超えています。そして、先天梅毒は2013年まで年間数例であったものが、今では年間30例を超え、今後の増加が心配されています。(図表2)

図表1



※1999年3月までは性病予防法に基づく伝染病統計、1999年4月からは感染症法に基づく感染症発症動向調査(2023年10月4日現在届出数)

図表2



※2022年以降は暫定値

お母さんが梅毒にかかると赤ちゃんがお腹の中で感染

梅毒に感染した女性が妊娠したり、妊娠中に梅毒に感染したりすると、病原菌が血液を通って胎盤から胎児の身体に入り、胎児が感染することがあります。これが先天梅毒です。なお、母乳による母子感染は、通常ないとされています。先天梅毒の胎児では、胎児発育遅延、肝脾腫、心奇形、紫斑、小頭症、水頭症、脳内石灰化などを発症するリスクがあります。また、出生時では、難聴、失明(網膜炎)、精神発達遅滞、白内障、骨軟骨炎、斑状発疹、水疱状発疹、角膜炎、ハッチンソン歯など先天異常を発症するリスクがあります。

性的接触の後、いつもと違う症状が現れるなどして、梅毒に感染しているか不安な時は、早めに医療機関を受診し、検査を受けましょう。梅毒の検査は、コロナ禍で有名になったPCR検査や血液検査による抗体検査が行われます。治療には抗菌薬の注射薬及び内服で治療します。

梅毒のほかにも、性器クラミジア感染症や淋菌感染症などの性感染症も問題になっております。性感染症の多くは、感染しても自覚症状が現れないことが多いため感染に気付かずにパートナーに感染を広げる危険があります。性感染症の拡大を防ぐために、性感染症を知り、適切に予防することが重要になります。

医師異動のお知らせ

新任（令和6年4月1日付け）

- ・内科 かねこ まさなお
金子 雅直 医師
- ・内科 とみだ ゆういちろう
富田 雄一朗 医師
- ・外科 うすい ゆき
臼井 佑希 医師
- ・整形外科 さとう りょうすけ
佐藤 良祐 医師
- ・整形外科 かきぬま えりか
柿沼 絵里加 医師
- ・精神科 うんの しゅう
海野 周 医師
- ・精神科 のうそう はじめ
能宗 新 医師

退任（令和6年3月31日付け）

- ・内科 鈴木 崇弘 医師
- ・内科 丸山 正隆 医師
- ・外科 阿久津 友洋 医師
- ・精神科 山口 潔乃 医師
- ・精神科 能登路 拓也 医師

ありがとうございました。



合同カンファレンス報告

令和6年2月21日（水）に第23回菊川市立総合病院・市立御前崎総合病院合同カンファレンスを開催しました。病院や医師会などから66名の参加がありました。

当院からは、泌尿器科 鈴木泰介 医師が「菊川市立総合病院における排尿自立支援の実践～多機能病院だからやりやすい排尿自立支援～」という演題で発表しました。会場からの質問も多数あり活発な意見交換ができました。

次回は、令和6年9月に菊川市立総合病院で行う予定です。詳細が決まりましたら、ご案内させていただきますので、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。



診療実績

○受託検査実績

項目	1月	2月
CT	31 件	23 件
MRI	41 件	34 件
超音波検査	13 件	14 件
その他検査	11 件	14 件

○診療実績

項目	1月	2月
紹介患者数	330 人	351 人
逆紹介患者数	266 人	251 人
1日当り患者数	入院	175.9 人
	外来	190.2 人
病床利用率	529.3 人	514.4 人
救急搬送件数	67.7 %	73.2 %
	127 件	93 件

【発行】

菊川市立総合病院 地域医療支援課 〒439-0022 静岡県菊川市東横地 1632

TEL：0537-35-2344

Eメール：renkei@kikugawa-hosp.jp

FAX：0537-35-2843

ホームページ：http://www.kikugawa-hosp.jp



©菊川市